

(平成24年11月分)

部 門	市況の概要
野 菜	11月期の野菜の入荷状況は、根菜類の一部、土物類で、概ね作柄良好であったことから入荷増となった。葉菜類では、キャベツが価格低迷から出荷自粛の動きがみられ入荷減、ホウレンソウ、レタスが急な冷え込みにより作柄不良がみられ入荷減、果菜類ではキュウリ、ナス、トマトが曇天、低温の影響による作柄不良で入荷減となった。野菜全体の入荷量は、前年同期を4%下回った。 価格は、土物類で入荷増により単価安となった。葉菜類ではキャベツが需要の低迷により単価安、ホウレンソウ、レタスが入荷減により単価高、果菜類ではナス、トマトが入荷減により単価高となった。野菜全体としては前年同期を5%上回った。 品目別には、カブラ、ピーマン、バレイショ、タマネギが入荷増の単価安、西洋ニンジンが入荷前年並みの単価安、ハクサイ、ホウレンソウ、レタス、ナス、トマトが入荷減の単価高、長ダイコン、キャベツ、キュウリが入荷減の単価安となった。 根菜類は、入荷が前年並み、価格は14%安となった。 葉菜類は、入荷が13%減少し、価格は23%高となった。 果菜類は、入荷が6%減少し、価格は11%高となった。 土物類は、入荷が9%増加し、価格は10%安となった。
果 実	11月期の果実の入荷状況は、柑橘類で主力産地の集中豪雨の影響により入荷減、メロン類で入荷減、前年が不作であったリンゴ類、柿類で入荷増となった。果実全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、柑橘類、メロン類で入荷減の単価高、リンゴ類、柿類で入荷増の単価安となった。果実全体では、前年同期を7%下回った。 品目別には、ジョナゴールド、富有柿が入荷増の単価安、ふじリンゴ、王林が入荷前年並みの単価安、ミカン、アールスメロンが入荷減の単価高となった。 柑橘類は、入荷が7%減少し、価格は13%高となった。 リンゴ類は、入荷が10%増加し、価格は19%安となった。 柿類は、入荷が25%増加し、価格は22%安となった。 メロン類は、入荷が36%減少し、価格は19%高となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長ダイコン カブラ 西洋ニンジン	千葉県を中心に、北海道、徳島県、長崎県、青森県からの入荷。 主力の徳島県産、長崎県産で、好天に恵まれ作柄良好であったものの、前年の入荷が多かったことから、全体の入荷量は、前年同期を３％下回った。 価格は、太物傾向の入荷となり、量販店等の需要が少なかったことから、前年同期を３％下回った。 京都府を中心に、北海道、滋賀県からの入荷。 主力の京都府産、滋賀県産で、好天に恵まれ作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を２８％上回った。 価格は、入荷増により、前年同期を５９％下回った 長崎県を中心に、北海道、鳥取県、愛知県、中国からの入荷。 多くの産地で、作柄良好であったものの、価格の低迷により一部出荷調整もあり、全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、需要の低迷により、前年同期を２４％下回った。
【葉菜類】 ハクサイ キャベツ ホウレンソウ レタス	茨城県を中心に、滋賀県、長野県、大分県、岡山県からの入荷。 多くの産地でおおむね生育は順調であったが、業務・加工需要の低迷により、全体の入荷量は、前年同期を２２％下回った。 価格は、入荷減であったこと、また、鍋需要が高まったことにより、前年同期を１４％上回った。 愛知県を中心に、茨城県、滋賀県、群馬県、長野県からの入荷。 主力の愛知県産で、好天により作柄順調であったものの、他の産地で価格の低迷による出荷自粛もあり、全体の入荷量は、前年同期を９％下回った。 価格は、業務・加工需要の低迷により、前年同期を２５％下回った。 京都府を中心に、岐阜県、徳島県、福岡県、茨城県からの入荷。 各産地とも、低温による作柄不良がみられたことから、全体の入荷量は、前年同期を１７％下回った。 価格は、入荷減であったことから、前年同期を５８％上回った。 兵庫県を中心に、茨城県、徳島県、長崎県、岡山県からの入荷。 主力の兵庫県産で、低温による作柄不良、茨城県産で前進出荷による切上がりの早さから、全体の入荷量は、前年同期を１８％下回った。 価格は、入荷減であったことから、前年同期を５０％上回った。

【果菜類】	
キュウリ	宮崎県を中心に、滋賀県、高知県、福岡県、京都府からの入荷。 主力産地の滋賀県産、京都府産で、好天により作柄良好であったものの、福岡県産で、9～10月の前進出荷による入荷減、宮崎県産、高知県産で曇天、低温の影響により作柄不良がみられたことから、全体の入荷量は、前年同期を7%下回った。 価格は、入荷減であったものの、需要の低迷により、前年同期を8%下回った。
ナス	高知県を中心に、岡山県、京都府、徳島県からの入荷。 多くの産地で、曇天、低温の影響による作柄不良がみられたことから、全体の入荷量は、前年同期を15%下回った。 価格は、入荷減であったことから、前年同期を24%上回った。
トマト	熊本県を中心に、滋賀県、福岡県、岐阜県、京都府からの入荷。 京都府産で、好天に恵まれ作柄良好であったものの、多くの産地で、朝晩の気温の低下による着色遅れがみられたことから、全体の入荷量は、前年同期を17%下回った。 価格は、入荷減であったことから、前年同期を25%上回った。
ピーマン	宮崎県を中心に、高知県、茨城県、大分県からの入荷。 多くの産地で、好天に恵まれ作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を4%上回った。 価格は、入荷増であったことから、前年同期を17%下回った。
【土物類】	
バレイショ (メーク含む)	北海道を中心に、長崎県からの入荷。 主力の北海道産で、収穫前の高温の影響により品質の低下がみられたため、貯蔵に回らず、早期出荷に流れたため、全体の入荷量は、前年同期を11%上回った。 価格は、入荷増であったことから、前年同期を17%下回った。
タマネギ	北海道を中心に、兵庫県、中国からの入荷。 兵庫県産で作柄不良であったものの、北海道産で、天候に恵まれ作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を9%上回った。 価格は、入荷増であったことから、前年同期を7%下回った。
【その他野菜】	
生シイタケ	徳島県を中心に、北海道、広島県、岡山県、和歌山県からの入荷。 主力の北海道産で、作柄良好であったことから、全体の入荷量は、前年同期を10%上回った。 価格は、入荷増であったものの、需要が堅調であったことから、前年同期並みとなった。

主要品目（果実）	市況の概況
ミカン	和歌山県を中心に、福岡県、熊本県、佐賀県、高知県からの入荷。 主力の和歌山県産で、好天に恵まれ作柄良好であったものの、福岡県産で集中豪雨の影響により入荷が減少したことから、全体の入荷量は前年同期を7%下回った。 価格は、入荷減であったことから、前年同期を12%上回った。
ジョナゴールド	青森県を中心に、岩手県からの入荷。 主力の青森県産で、生産面積が減少傾向であるものの、作柄順調であったことから、全体の入荷量は、前年同期を29%上回った。 価格は、入荷増であったことから、前年同期を21%下回った。
ふじ （サン含む）	青森県を中心に、長野県、岩手県、北海道、山形県からの入荷。 多くの産地で、降雨等の影響により生育遅れが見られたものの、不作であった前年の入荷が少なかったことから、全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、前年が単価高であったことから、前年同期を18%下回った。
王林	長野県を中心に、岩手県、青森県、福島県からの入荷。 主力の青森県産で、生産面積が増加傾向であるものの、全体の入荷量は、前年同期を平年並みとなった。 価格は、黄系品種の需要の低迷により、前年同期を27%下回った。
富有柿	福岡県を中心に、奈良県、京都府、和歌山県、鳥取県からの入荷。 各産地とも、作柄順調で平年並みの入荷であったものの、前年の入荷が少なかったことから、入荷量は、前年同期を24%上回った。 価格は、入荷増であったことから、前年同期を18%下回った。
アールス	静岡県を中心に、熊本県、高知県からの入荷。 主力の静岡県産で、入荷が少なかった前年に比べ、入荷量は増加したものの、各産地とも、入荷量が減少したことから、全体の入荷量は、前年同期を26%下回った。 価格は、上位等級の入荷が多かったこと、また、入荷減であったことから、前年同期を14%上回った。